

番外

頂山とオハイ海岸（尾鷲市九鬼町）

◇実施日 5月28日（土）

晴

◇参加者 21名

中前さんの企画で、尾鷲市九鬼町の頂山とオハイ海岸を周回するコースを歩くことになった。オハイ（大配）は青い海と複雑な岩の地形で、「映える」と一躍有名になった場所だ。



出発前



立派な石垣が残る



林道に出る

九鬼コミュニティセンターに集合して、海拔ゼロメートルから歩きだす。民家の横の階段を登っていくが、100m位上まで住居の痕跡があり、こんな上にまで人が住んでいたのかと驚かされる。1時間ほどで舗装された林道に出る。ここから頂山（397.9m）

まではほぼ直登に近く、特に山頂直下の傾斜がキツイ。



頂山山頂で



ハカリカケ岩の展望地



古田キャンプ場で昼食

頂山の山頂は展望も無く、三角点が無ければ山頂と気付かないくらいだ。写真を撮って早々に次に向かう。約30m下って「ハカリカケ岩」に着く。高さ4m位の岩が二つに割れている。名前の由来は誰も知らなかった。すぐ傍の大きな岩に登ると太平洋が見渡せる。ハカリカケ岩を後にし、オハイへ向かう。ハカリカケ岩が368m、オハイは海岸なのでゼロm。一気に歩くとなかなかキツイ。途中の古田キャンプ場とされている広場で昼食。氷が入ったアイスコーヒーが振る舞われた。

古田キャンプ場からオハイに下る分岐までは4分ほど、最近立てられた標識もあり、見落とさなければ迷う心配はない。沢沿いに下る事約15分、樹林帯が終わり明るく広い岩場に出た。沢は岩の上をナメ滝状に海まで流れ下っている。途中で2〜3本の枝沢が合流している。水量は多く、水音も大きい。オハイのハイライト「オハ

「イブブルー」の海は右側の少し下、入江状になっている場所だ。岩は殆ど滑ることがないので、歩きやすい所を選んで下る。



確かに海は青い。入り江の奥は確認できないが、水は流れ込んでいないようだ。少し風があり、海面は波立っているが透明度は高く海底の様子もよく判る。参加した若い女性たちは写真を撮りまくっていた。

オハイを堪能して登山道迄登り返す。山裾をトラバースする形で徐々に高度を下げる。一時間弱で猪垣広場に到着し休憩、登山道はよく整備されて歩きやすい。

休憩を終え九鬼漁港を目指す。途中には立派な石垣も残っていて、この道が昔は生活道路だったことがうかがえる。

家屋が見えだして漁港の集落に入る。細く曲がりくねった道が続き、これぞ港町と言う感じだ。次に何が見えるのか、とワクワクしながら歩く。一軒ずつ表札を見ながら進んだが「川上」姓が多かった。

港の傍なので、川下が当然だが川上が多いのは不思議なことだ。漁協の前に出て海沿いの道路を出発地まで戻った。

(記：梶野)



猪垣広場で休憩



九鬼漁港



出発地で解散

行動タイム

九鬼コミュニティセンター 08:58 → 09:57 林道 ↓ 10:51 頂山山頂
↓ 11:09 ハカリカケ岩 ↓ 13:18 オハイ分岐 ↓ 13:35 オハイ 13:53
↓ 14:14 オハイ分岐 ↓ 14:42 猪垣広場 ↓ 16:07 九鬼コミュニティ
センター

